

医師の異動（9月）

■着任（令和4年9月1日付） なし

■退職（令和4年8月31日付） 消化器内科 大野 将司

第321回 開放型病床生涯教育研修会を開催！

令和4年8月4日に第321回開放型病床生涯教育研修会を開催しました。

今回は講師にこの5月当院に着任された公認心理師の天野可奈子先生を迎え「悪い知らせを伝える際のコミュニケーション」をテーマにご講演いただきました。

今回もコロナ禍ということもあり会場とZoomとのハイブリッド形式で開催し、院内外から40名の参加をいただきました。

患者さんとのコミュニケーションとして声かけの方法や面談時の傾聴、共感が大切であると言った感想があり有意義な研修となりました。



第322回 開放型病床生涯教育研修会について

日時：令和4年10月6日（木）17:30から18:30

テーマ：「外科医から見た在宅診療、在宅医から見た病院」

講師：川島和彦氏 京都市 渡辺西賀茂診療所（当院 前外科責任部長）

会場：市立長浜病院 本館2階 講堂

申込み：FAX またはメールでお申し込みください。

※感染対策を十分に講じて開催し、会場での参加は先着30名とさせていただきます。

※Zoomでの参加も可能です。

※申し込み方法等は、別添の開催チラシをご参照ください。

※日本医師会生涯教育制度指定講習会として申請します。

※新型コロナウイルス感染症の拡大の推移により、開催方針に変更がある場合は速やかにご案内いたします。



■ 編集後記 ■

新型コロナウイルスが全国的に拡大する中、この夏は移動制限もなく夏を満喫！と言いたいところでしたが、結局昨年と同じく何処へも行けず残念な夏となったのは私だけでしょうか？



市立長浜病院 地域医療連携だより 令和4年9月1日号 No.210

理念
地域住民の健康を守るため、「人中心の医療」を発展させ、地域完結型の医療を進めます。

市立長浜病院
患者総合支援センター 地域医療連携室
〒526-8580 長浜市大茂亥町 313 番地
TEL：0749-65-2720
FAX：0749-65-2730
http://www.nagahama-hp.jp/



救急告示病院
日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療連携拠点病院
厚生労働省臨床研修指定病院
周産期協力病院
地域医療支援病院

謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当院病院事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。9月の外来診察担当医師表を別添資料でお届けいたしますので、ご査収ください。 敬白

ご挨拶と消化器内科のご案内

消化器内科責任部長 高橋 憲一郎



この度、令和4年5月1日付けで市立長浜病院消化器内科責任部長を拝命いたしました、高橋憲一郎と申します。昨年度までは滋賀医科大学に勤務し、主に炎症性腸疾患の診療に携わっておりました。

私が生涯の専門領域として消化器内科を選んだのは、common disease から難病まで幅広い疾患に携わることができることに魅力を感じたことが理由ですが、医師となって数年間の最も大切な時期に消化器疾患をはじめとする様々な内科疾患診療を研修させていただいたのがこの湖北地域でした。これからは私を育てていただいた湖北地域の皆様に少しでも恩返しができるよう尽力できればと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、当院消化器内科は2018年10月から滋賀医科大学からの医師派遣が始まり、現在は8名の常勤医師と数名の非常勤医師で診療を行っております。地域の先生方との連携もスムーズに行えるよう当日病診連携の紹介も受け入れております。当科では診断から治療まで各科と連携し、患者さん一人一人に最適な医療を提供できるよう心がけております。腹部症状でお困りのことがあれば、お気軽にご相談ください。

また、内視鏡センターでは、ご紹介いただく患者さんの増加に対応すべく、昨年5月に内視鏡センターを更新し、検査室や内視鏡機器も増設されました。検査対応可能件数の増加に伴い、紹介患者様もお待たせすること無く迅速に検査をすることが可能になっております。ニーズの高い低侵襲の内視鏡検査に関しても、極細径の経鼻内視鏡や鎮静下内視鏡が可能です。「内視鏡検査は苦手」という患者さんも是非ご紹介いただければと思います。

早期消化管腫瘍に対する内視鏡治療（内視鏡的粘膜下層剥離術：ESD）、胆膵疾患に対する内視鏡的逆行性膵管胆管造影（ERCP）や超音波内視鏡（EUS・EUS-FNA）、小腸疾患に対するカプセル小腸内視鏡やバルーン小腸内視鏡など、ほとんどの内視鏡検査や処置に随時対応可能な体制を整えております。大学病院等からの非常勤医師とも連携し、高度な医療を安全に提供できるよう努めております。

最後になりましたが、地域の先生方には日頃より大変お世話になっております。この場をお借りして消化器内科一同御礼申し上げます。地域の皆様、先生方に信頼していただける医療をご提供できるよう日々努力する所存ですので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

“飲む”内視鏡、カプセル小腸内視鏡

内視鏡センター責任部長 今枝 広丞



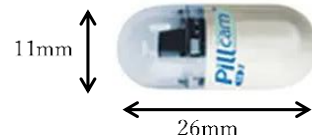
昨年、当院の内視鏡センターを新装改修させていただき、もう1年余りとなります。近隣の医療機関からのご紹介をもちまして、内視鏡の件数は飛躍的に増加し、多種多様な検査に対応すべく、日々努力させていただいております。

特に件数の上昇が著しかったものに、超音波内視鏡と小腸内視鏡があげられます。特に小腸内視鏡は、「原因不明の消化管出血」の検査としてのニーズが多く、上部消化管内視鏡と全大腸内視鏡を施行しても出血源を認めなかった患者さんに施行されます。昨今、抗血栓薬を複数内服する治療が一般化され、その症例数も上昇傾向にあることから、貧血を精査するにあたっての小腸内視鏡の役割が重要となってきています。

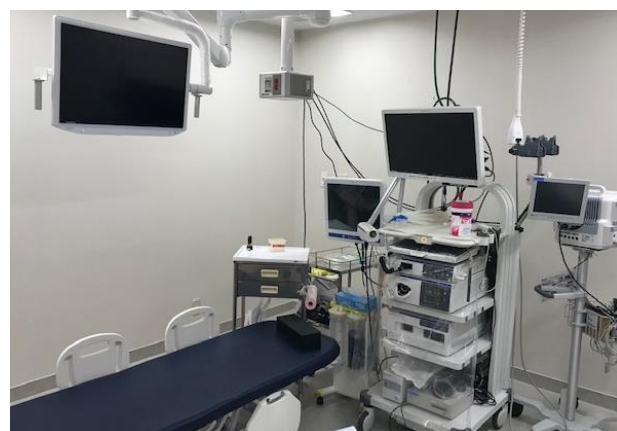
当院内視鏡センターでは、小腸内視鏡として、「カプセル小腸内視鏡」と「ダブルバルーン小腸内視鏡」の2種類を採用しています。カプセル小腸内視鏡は通常の内視鏡とは異なり、長径26mm、短径11mmのカプセル型の内視鏡で、先端のCCDカメラで撮影された画像を体外の受信機で受信するものです。挿入するのではなく、まさしく「飲む」だけの内視鏡です。経口で内服してから、小腸内を通過するのにおよそ4時間から8時間ほどで、通常の排便とともに排出されます。朝8時30分に来院いただき、受信機の回収はその日の16時30分となり、その間は、家で過ごすことができます。時間がかかりますが、通常の上部消化管内視鏡に比べて楽であることが利点です。

しかし、カプセル小腸内視鏡は病変を認めても、生検や止血処置をすることができません。止血処置が必要な時は改めてダブルバルーン小腸内視鏡をすることになります。原因不明の消化管出血に対して施行したカプセル内視鏡のうち約半数に対してダブルバルーン小腸内視鏡を施行します。止血点を認めたときには、図のように焼灼止血を行います。小さな出血点ですが、抗血栓薬を内服されていると輸血が必要なほど貧血が進行します。この方はこれ以降、輸血は必要なくなりました。

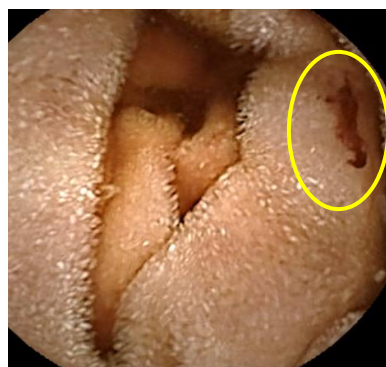
我々はしばしば、輸血が必要なほど貧血が進行する患者さんに遭遇します。特にこの湖北地域では、ご高齢の方が多く、また抗血栓薬を複数内服されている方が多いです。原因不明の貧血が進行する患者さんは、ぜひ当科にご相談ください。 よろしくお願ひします。



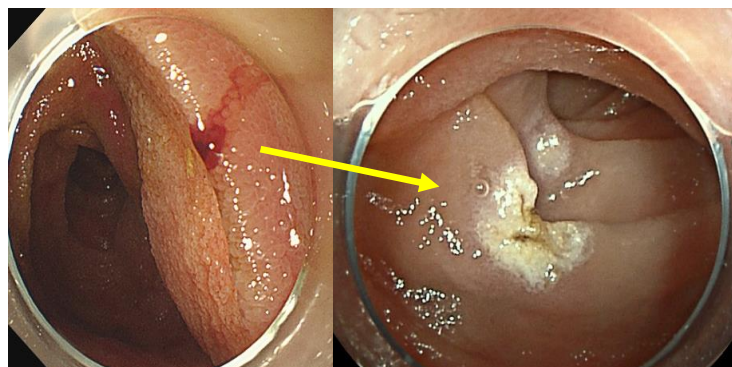
カプセル小腸内視鏡



内視鏡センター内視鏡室



小腸粘膜の○印内に出血点を認めます。



ダブルバルーン小腸内視鏡で焼灼止血を行いました。

内視鏡センターからご挨拶

内視鏡センター看護師 井上 弘美

2022年度4月から新体制にて放射線科・内視鏡センター業務が開始しました。内視鏡センターにおいては、看護師が常時7名体制にて検査・治療を行っております。コロナ渦ではありますが、内視鏡検査・治療件数、検査種と2020年度に比べ2021年度は拡大傾向にあります。内視鏡センターで実施している検査・治療数としては、2021年度において約6500件を超えてきている現状です。

内視鏡センター設立後日帰り鎮静下内視鏡検査を開始し、7件/日の予約枠を確保しております。また、ヘルスケアセンターでの予約健診においても鎮静下内視鏡検査の受入れを開始しています。鎮静下内視鏡検査を受けられた患者様からは好評な意見を直接耳にすることでスタッフのやりがいに繋がっています。また、忙しい中にも患者様とふれあうことで私たちスタッフが癒やされることもあります。患者様が少しでも安全・安楽に検査・治療を受けて頂けるよう配慮を重ね、日々スタッフ間で協議すると共に医師や外看護師、病棟看護師、他職種と連携を取りながら業務を行っています。

これからも試行錯誤を重ねながら、患者様によりよい看護が提供できるように努めたいと思います。地域の診療をして頂いています医院やクリニックの先生方からのご紹介をお待ちしております。

令和3年度 検査件数	
上部消化管内視鏡 合計	4,222
経口上部消化管内視鏡	1,896
経鼻上部消化管内視鏡	1,965
緊急上部消化管内視鏡	280
胃・食道ESD	54
胃EMR	14
食道拡張ステント	11
内視鏡的食道静脈瘤治療	2
下部消化管内視鏡 合計	1,963
通常大腸内視鏡	1,583
緊急大腸内視鏡	123
大腸EMR・ポリペクトミー	234
大腸ESD	23
肝膵内視鏡(ERCP)	248
超音波内視鏡(EUS)	148
胃瘻造設・交換	59
小腸バルーン内視鏡	27
小腸カプセル内視鏡	8

単位: 件

内視鏡センター看護師 岡本 弓子

消化器内視鏡センターのリニューアルから1年あまりが過ぎました。検査数は昨年度と比較すると1000件程の増加となっています。おおまかに上部内視鏡検査では平均50件程度/月、下部内視鏡検査では平均30件程度/月の増加となっています。またリニューアル後より、新たな検査として上下部同時の鎮静下内視鏡検査も増加しています。

来院後の患者様の流れとしては、内視鏡検査に来られた方から受付を行い、上部内視鏡検査と下部内視鏡検査に分かれて前処置を開始します。発足当初からの課題であった上部内視鏡検査の前処置では、プライバシーに配慮し、カーテンで仕切られた空間で前処置が進められるよう改善しました。また、下部内視鏡検査の前処置として腸管洗浄液を内服していただく場所には新たにアクリル板の設置を行い、感染症対策に務めるなど検査環境の改善に努めています。

患者様の中には検査時の苦痛を訴えられる方も少なくありません。そのような方にも安楽に内視鏡検査を受けていただけるよう、日帰りでの鎮静下内視鏡検査も行っています。検査中の一時的な鎮静ですので、検査後は1~2時間リカバリールームで休んでいただき、医師の診察後に帰宅が可能となります。

当院の取り決めにより、鎮静下での検査は公共交通機関もしくは送迎をしていただける方に限定されますが、鎮静下での内視鏡検査を受けられた患者様からは、「眠っている間に検査が終わるため、非常に楽でした。」という声を多数聞いています。

初めて内視鏡検査を受けられる方も、繰り返し受けておられる方も検査における不安や緊張はつきものです。リラックスした状態で検査を受けていただけるよう、様々な要望にもできる限りお応えします



内視鏡センタースタッフ